

hito*yume
インタビュー

乙武洋匡

巻頭特集

大学在学中、重度の障害を苦にもせず、自身の姿をユーモラスにつづった著書『五体不満足』で、一躍、時の人となった乙武洋匡さん。

「その重い十字架を下ろしたかった」と、彼が大学卒業後に選んだ職業は、実力が問われる世界に身を置くスポーツライターでした。

しかし、ひとりの書き手として力を磨き、自信がもてるようになった2004年、彼は、突然、教育界への転身を決めます。

その背景には、「周りの人々に恵まれていた」という感謝の気持ちがありました。



【おとだけ ひろただ】

1976年東京都出身。大学在学中、自身の経験をユーモラスにつづった『五体不満足』（講談社）が500万部を超すベストセラーに。大学卒業後、スポーツライターとして活躍。その他、絵本の制作に携わるなど子どもたちへのメッセージを発信していく活動を行う。また、2005年4月から東京都新宿区教育委員会の非常勤職員「子どもの生き方パートナー」として教育活動をスタートさせるかたわら、小学校教諭二種免許状を取得。2007年から3年間、杉並区の小学校教諭として勤務し、3・4年生を担当。現在は、今年開園した「まちの保育園」の運営に携わるほか、メディアを通して教育現場で得た経験を発信していく活動を柱としている。

©Kiyoshi Mori

TOSHIBA
Leading Innovation >>>

資産管理・運用管理でお困りですか？ それなら、**情報セキュリティ対策**も あわせて解決！

毎期の棚卸しは面倒！



運用サポートの負荷が増大！



USBメモリーで情報が流失！



中堅・中小規模企業向けクライアント管理システム

SmartUJ

資産管理、情報漏えい対策と 運用支援をこの1台で！

「SmartUJ」は、情報漏えい対策からPCの資産管理・運用管理で実績を積んできた「PC運用上手」に自席PCのデスクトップ環境を再現する新機能（リモートクライアント）を追加し、機能別の購入も可能とすることにより導入しやすくした製品です。

詳しくは

または、<http://smartuj.toshiba.co.jp/>

- ▶ 資産管理
- ▶ 操作制御
- ▶ 操作監視
- ▶ 不正PC検出・遮断
- ▶ リモートクライアント
- ▶ PCデータバックアップ

※Active Directory
構築ツールを提供



高性能
スマート

信頼性に優れた
インテル® Xeon® プロセッサ
X3440 以上を推奨

●「SmartUJ」は東芝の商標です。●Intel、インテル、Intel ロゴ、Intel Inside、Intel Inside ロゴ、Centrino、Centrino Inside、Intel vPro、Intel vPro ロゴ、Celeron、Celeron Inside、Intel Core、Core Inside、Pentium、Pentium Inside、vPro Inside、Xeon、Xeon Inside は、アメリカ合衆国およびその他の国における Intel Corporation の商標です。●Microsoft、Windows、Windows Server、Active Directory、Vista は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における商標または登録商標です。●本資料に掲載の商品の名称は、それぞれ各社が商標として使用しているものがあります。●資料の内容はおりなしに変更することがあります。

株式会社 **東芝**
ネットワーク&ソリューション統括

〒105-8001 東京都港区芝浦1-1-1
Email: pcman@ieg.toshiba.co.jp

東芝情報機器株式会社
プラットフォーム・ソリューション本部

〒135-8505 東京都江東区豊洲5-6-15 (NBF豊洲ガーデンフロント)
Email: pcman.info@toshiba-tie.co.jp

東芝グループは、持続可能な
地球の未来に貢献します。

eco スタイル



当時はただひたすら
 厳しい先生ということしか
 思っていませんでした。

物心ついた時から 無類の負けず嫌い

乙武さんのお母さまは、生まれながらに手足がない息子と初めて対面した時、周囲の心配をよそに「かわいい」とすぐさま抱きしめられたそうですね。乙武家が愛で満ちていたところがそのエピソードだけでも十分に伝わってきますが、子どものころのご両親とのエピソードで印象に残っていることはありますか？

両親の愛情はいつも感じていましたが、「わたしたちのようなマイルドな夫婦からどうしてあなたのような性格の子が生まれたのかわからない」ということはよく言われましたね。とにかく子どものころのわたしは無類の負けず嫌いでわがまま。自分がしたい遊びがあると、ほかの子が違う遊びをしている中に入っていく自分がやりたい遊びに変えさせるといった、かなり素敵なお子さまだったようですから(笑)。

当時のわたしのそんな性格を、両親は真剣に悩んだみたいです。こういう鼻持ちならない性格のまま育ててしまうことは、やはりよくないのではないかと。友だちもいなくなってしまうんじゃないかと。友だちもいなくなってしまうんじゃないかと。

例えば、入学から2カ月目、それまで電動車いすを得意げに乗りまわしていたわたしに「学校内車いす禁止」を先生から言い渡されました。以来、校舎内はもちろん、校庭に出る時も全部自分の足で、お尻を引きずるように歩いて行くことが唯一のわたしの移動手段になりました。しかし、嫌だとは一度も言わなかったですね。おそらくわたしの負けん気の強さが弱音を吐くことをさせなかったのでしょう。それを見抜いていた高木先生の戦略勝ちかな(笑)。

当時、ほかの先生や保護者から「そこまでしなくても」という声は出なかったのでしょうか。

あつたようです。しかし高木先生は「今だけ乙武を甘やかすことはいくらでもできる。でもそれが本当に彼のためになるのだろうか」と、考えを変えようとはしなかった。つまり、先生はその時のわたしだけでなく、将来のわたしともしっかり向き合ってくれていた。

当時まだ低学年の乙武少年に、先生の思いは届いていたのでしょうか？

当時はただひたすら厳しい先生とい

ないかと。しかしその一方で、この先、障害を抱えて社会で生きていくにはこれぐらいの強さは必要なのではないか。その2つの交錯する思いの中でかなり悩み話し合ったと、あとになって聞かされました。

ご両親はどちらを選択されたのでしょうか？

そのまま行こうと(笑)。結局、強さを選んだのでしょうか。その姿勢はある意味徹底していたと思います。自分で食べ、書き、ハサミも使おうとする、何でもやりたがるわたしに対して、一度も「危ない」とか「やめておいたほうがいい」と言われたことはなく、気が済むまでやらせてくれましたから。しかし、わたしを残して旅行に行った時には、さすがに少しぐらい心配してもいいんじゃない(笑)と思いました。自分が親になって子どもを心配しない親はいいことにはあらためて気づき、本当は口出ししたくてしかたない時も度々あつたに違いないのに、それをぐっと飲み込んでくれていたのだらうと思うと、とても感謝しましたね。

うことしか思っていないでしたね。でもね、愛のある厳しさは、子どもたちにもその意図するところはわからずとも、やはり伝わっているんですよ。いろんなことができるようになったわたしは、その後、全くエレベーターなどの設備のない中学、高校、大学でも、バリアをそれほど意識せず過ごすことができ、それは高木先生の厳しい指導があつたからだと素直に思えました。そして何より、わたしは小学校生活が楽しくてしかたがなかった。子どもはね、きつとわかっちゃうんです。そこに愛があるかどうか。もつとも、先生の指導でいちばん辛かった水泳の時間にあんな深い意味が込められていたとは、20歳を過ぎて先生の家で想い出話をお聞きするまでは考えもしませんでした。

水泳指導も同じように受けられていたのですか？

ええ。ほかの子と同様に何でもやりたいと思っていたので、水泳もやって当然だとは思っていたのですが、当時は今より手足が短く家の湯船でさえ溺れかけたことがあります。やはり身の危険を感じ防衛反応が働くんでしょうね、唯一「逃げたい」と思う授業でした。そ

「学校内車いす禁止」から始まった小学校生活
 小学校は世田谷区立の普通学級に入学。ご自身の戸惑いと学校側の戸惑い、その両方があつたと思うのですが。
 不思議に思われるでしょうが、わたしに戸惑いはほとんどなかったですね。一方受け入れる側の学校が大変さを感じていたのはもちろんでしょう。何とか受け入れを決めてくれた世田谷区立の小学校でさえ、わたしの担任をしたいと手を挙げてくださったのはお二人だけだったそうです。そのうちのひとり、高木悦男先生が1年生〜4年生までの担任でした。非常に厳しい先生でしたが、できることの幅をぐんと広げることができたのは、高木先生のおかげだと思っています。



「1/6,900,000,000」

乙武さんは教師として、命の大切さを子どもたちに伝えるために、掲げた言葉があります。それは、「1/6,900,000,000」。担任をもったクラスの壁に筆で書き掲げていました。「世界には69億人もの人がいる中で、君はたったひとりの存在でしかないけれど、そのたったひとり誰にも代わりを務めることができない。君はかけがえのない存在なんだよ」というメッセージです。時にはジグソーパズルで、何千ピースのパズルであっても、ひとつのピースの代わりはどのピースにも務まらないことを子どもたちに伝えました。乙武さん自身が両親や学校の先生にはぐくんでもらった、この「自己肯定感」こそが、命の大切さにつながるという思いからです。

コラム

の思いは十分表に出ていたと思います。ところが、高木先生はそんなことはおこまいなしに、水泳の時間になると自らも水着になり、わたしを抱きかかえるようにしてプールに入り、「いくぞ」と言つて手を離す。数秒は仰向きで浮いていられるけれど、すぐに転覆。ひたすらその繰り返しです。だからこの特訓だけはずっと苦い記憶しか残っていません。

しかし、そこには先生の深い思いがあったのです。「乙武くんが水の事故にあつても自分では泳げないよね。だからせめて誰かが救助に駆けつけてくれるまで自力で浮いていられるようにしておきたかった。その練習だったんだよ」。それまで恨めしくさえ思っていた当時の光景を感謝の気持ちで振り返られるようになったのは、その時からです。

子どもたちが自ら生み出した「オトちゃんルール」

「小学校生活が楽しくてしかたがなかった」背景には、そうした先生の存在とともに、やはり同級生たちとの楽しい思い出があるのだと思います。子どもたちは乙武少年とどう接

したのでしよう。何か先生のアドバイスがあつたのでしょうか。

わたしに対してこう接しなさいという決めつけはありませんでした。その中でただ1点だけ。だんだんクラスにわたしが馴染んでいくと、周りの子がいろいろとお手伝いをしたがる。それを先生はやめさせていました。「何でもしてあげると、乙武くんは自分でできることもできなくなってしまう。乙武くん自身ができることは時間がかかってもやらせるようにしなさい。どうしてもできないことはきつと本人が言うから、その時には助けてあげなさい」と。だから友だちはわたしが困っていないければ放っておき、困れば自然と手を差し伸べてくれました。スポーツが大好きだったわたしは、野球やドッジボール、サッカーもよくやりましたが、例えばサッカーではわたしのシュートだけ3点という「オトちゃんルール」をみんなで生みだし、心から楽しんでゲームもできました。

「五体不満足」に息苦しさを感じた2年間

そして中学・高校では運動部にも所

コメントに夢見心地のまま帰途についていますが、途中からいいような複雑な気持ち湧いてきたのです。

わたしはキンデラン選手とは比べるべくもないが、街に出れば「勇気をもらえた」「すばらしい」と言ってもらえる。けれどそれは実像以上の評価だとわかつていたから、いつかメッキが剥がれる「大したことないじゃないか」と言われることが怖く、声を掛けられてもつけないような態度をとってしまうことが続いていた。一方、わたしの心を躍らせたキンデラン選手のあの言葉には、おそろくそう言えるだけのこれまでのものすごい努力が隠れている。そう思った時、「実像以上の乙武洋匡に近づこうとする努力」を一切しないまま、逃げることにしか考えていなかったことに気づいたのです。それからは本を出したことも、また自分への周りの反応にも前向きに対応することができるようになりました。

「恩返し」を胸に教育の現場へ転身

スポーツライターとして実力も実績もついた中で、2005年から2年間の東京都新宿区「子どもの生き方パートナー」を経て、2007年から

属。そんな伸びやかに過ごされてきた経験を早稲田大学の3年生の時に著書にされたのが『五体不満足』ですね。

伸びやかかあ。自己中心的に面白そうなことにはほとんどん手を出し、親に「おはよう」と言われれば「うるせえ」と返す立派な反抗期もあつて健全な成長過程を経た(笑)という点では、伸びやかに育ったんでしょね。

なるほど(笑)。「五体不満足」は500万部を超える大ベストセラーとなつたわけですが、その反響を自身はどう受け止めておられましたか。

当初は「出さなきゃよかった」と思いました。特徴のひとつだと思つていた障害をいやでも意識せざるを得ない、それまでのフツの日常ではない日々がやつてきた。何より押し寄せた称賛に値することは何ひとつしていないことを自分がいちばんわかつていて、息苦しくてたまらなかつた。ずっと原因不明の吐き気が続き、2年間ほど病院に通つてもいたんです。

そこから立ち直れたのは、何かきっかけがあつたのでしょうか。

は東京都杉並区の任期付独自採用という特別枠で3年間、実際に公立小学校で教諭として勤務されました。教育の現場への転身の背景には何かあつたのでしょうか。

ようやく「五体不満足」という十字架を下ろしていいのかなと思えるようになった時、あらためて「自分は何がしたいのか？」と考えたのです。1年以上悩んでいたでしょうか、「恩返し」というキーワードが鮮明になってきて。わたしが今こうして毎日を充実して生きていられるのは、両親、先生方、近所のおじちゃん、おばちゃんといった周りの大人が、ありのままのわたしを受け入れ、正しい厳しさをもって接してくれたからだ。一方、最近相次ぐのは、少年少女が加害者にも回つてしまう痛ましい犯罪。周りの大人は彼らのSOSに気づき、軌道修正してあげることができなかったのかと思つた時、「わたしは恵まれていた。今度は自分が次の世代にそれを返していく番なのではないか」と感じたのです。そこから教育に興味を持ち、やはり教育に携わるなら、踊る大捜査線の青島刑事の言葉ではないけれど「現場」に出なければと思つたのです。



わたしがいちばん伝えたいのは「みんな違ってみんないい」ということ。

教師自身が悩み苦しみ、導き出した思いは伝えるべきだと思う



スポーツライター時代、タイでムエタイの選手たちと

お待ちせ
しました!

人気シリーズの第2弾 一挙刊行決定!

この夏、あなたの授業を変える3冊

いずれも7月下旬刊行予定。書名、表紙デザインは変更になることがあります。



筑波大学附属小学校教諭

白石範孝の **おいしい国語授業レシピ2**

国語授業のフルコース

B5変型判 128ページ
定価1,680円(税込)

白石先生のあの授業が、
出来上がるまでの「すべて」を大公開!
直筆の教材研究ノートも公開。
真似たくても真似できない
あの授業の秘密はここにあった!
白石式国語授業のフルコース。

筑波大学附属小学校教諭

田中博史の **おいしい算数授業レシピ2**

算数授業 55の知恵

B5変型判 128ページ
定価1,680円(税込)

子どもたちが算数の授業で楽しいと感じるのはどんなとき?
「正解したとき」「はやくできたとき」……だけだと思いませんか?
楽しく学んで力をつける算数授業をめざすあなたのために、55の知恵を送ります。



筑波大学附属小学校教諭

二瓶弘行の「一日講座」シリーズ2

「物語文 授業 づくり 一日講座」

B5変型判 128ページ
定価1,680円(税込)

伝説の一日講座が、「物語文」をテーマに再び開講! 子どもたちに伝わる物語文の授業とは?
授業で勝負するすべての実践家たちへの熱いメッセージが今年も届けられます。

●シリーズ好評既刊も重版できました●

各刊B5変型判 128ページ
定価1,680円(税込)



大好評
新刊

23年新版教科書の
新登場教材の研究にも
最適

B5判 144ページ
定価2,100円(税込)



「乳幼児期の子どもが集まる保育園で “地域で子どもを育てる場所”を育てたい

真っ直ぐに伝えたい
教育者としての思い

教師としての3年間の実体験を題材に
書かれた小説『だいたい3組』を読み
むと、現場でいろんなことに取り組み
れたことがわかりますが、最も悩まれ
迷われたことは何だったのでしょうか。

わたしがとにかく子どもたちにいち
ばん伝えたいのは、「みんな違ってみ
んないい」ということ。しかしという
個性を大事にする教育が結果的に彼
らを苦しめてしまうことになるのは
ないか。なぜなら社会はそうなっては
ない。その中で自分を表現していいとい
う教育で彼らを社会に送り出してし
まうことは、わたしのエゴなのではな
いか。そのジレンマに陥り、かなり悩んだ
ことが一時期ありました。

しかし結局は、どうい社会を目指
していききたいのかというところに立ち
戻った時に、わたしが好ましいと思っ
ていない社会に子どもを当てはめてい
くことは、やはり教育者としてはやりた
くない。「夢と希望ももてるという社
会にしていきたいし、君らもそんな社
会を目指す大人になってほしい。人間
になってほしい」。その思いを込めて育

ていくことが教育なのだろうと、わたし
の中で行き着いたのです。

乙武さんと同じように、先生方一人
ひとりにも教育へのさまざまな思い
があるとします。そんな先生方に
アドバイスをいただけますか。

例えば、わたしの選択が果たして正
解なのかどうか、その結果がわかるの
は何十年後でしょう。けれども教育の
現場では、いつも何らかの結論を出して
進めいかないとはいけません。ならば、教
師自身が悩み苦しむ、そこから導き出
した子どもたちのことを考えた真っ直
ぐな思いであれば、わたしはやはりそ
の思いは伝えるべきだと思います。

実は、高木先生がわたしの教育実習
を見に来てくださりアドバイスをいた

だく段で、ただひと言こう言われたん
です。「教育はね、最後は人柄、人間性
だから」。わたしの場合は任期付採用
であったので、現在は教師として現場に
は立ってはいませんが、先生のその言葉
を胸に、次に向かって進んでいます。

そのひとつとして、今年4月に東京
都練馬区に開園した「まちの保育園」
の活動があります。わたしは教員時
代、子どもたちに多様な出会いや経験
をさせること、そしてその経験情報を
教育者と保護者がどれだけ共有でき
るかが、重要だと感じました。そこで、
人間の土台が築かれる乳幼児期の
子どもが集まる保育園で、子どもたち
と家庭の拠り所のような存在の保育園
を育てたいと思い、保育園の経営に携わ
ることにしました。今は、その活動にわ
くわくしながら取り組んでいます。



「まちの保育園 小竹向原」の園舎の前で